

独立行政法人国立国語研究所「外来語」委員会 第16回
議事要旨

1. 日時 平成16年7月1日(木) 10:00~12:30
2. 場所 国立国語研究所会議室
3. 出席者 甲斐委員長, 水谷副委員長, 中西副委員長, 相澤委員, 倉島委員, 神津委員, 古賀委員, 小森委員, 柴田委員, 関根委員, 田中委員, 鳥飼委員, 中山委員, 福田委員, 松岡委員, 山崎委員
4. 会議の概要
 - (1) 第3回中間発表について
6月29日に行われた第3回中間発表について, その後の反響も含めた報告とそれについての意見交換を行った。
 - (2) 第3回最終発表までの予定について
メール等で寄せられた意見をふまえて中間発表案を修正し, 第17回委員会(8月下旬予定)で最終発表案を確定することとした。
第3回最終発表は, 第17回委員会終了後の8月下旬もしくは9月上旬に行うこととした。
 - (3) 第4回提案のための作業手順について
第4回中間発表に向けての作業手順の説明と, 第4回に取り上げる語について検討を行った。
第4回はこれまでの総集編として, これまで提案したすべての語を分野別に配列して示す。そのため第4回では, これまで手薄であった「医療・福祉」「環境」「生活」「社会」の分野に属する語を重点的にとりあげることにした。
 - (4) その他
5. 会議での主な意見
「ドメスティックバイオレンス」について「配偶者間暴力」では意味を限定しすぎであるとの意見があるが, 専門家によると「子から親への暴力」との区別のためにあえて「家庭内暴力」ではなく「ドメスティックバイオレンス」と言うのであって, 「ドメスティックバイオレンス」をパートナー間に限定した委員会の提案は妥当である。
第3回の最終発表では, これまで積み重ねてきた成果として第1回, 第2回の提案内容についても触れた方がよい。
漢語が多くわかりにくいとの声があるが, 第3回の語は和語で表わそうとすると冗長になるものが多く, 漢語の簡潔さは有効である。
個々の語の検討の前に, 和語を第一とした上で漢語の採用も認めるとするのかなど, 言い換えに対する委員会の基本姿勢についての議論が必要である。

語が属する分野によって外来語の分量にばらつきがある。これまで提案した語が少ないからといって、その分野に重点をおいて検討する語数を増やすのは危険ではないか。

提案する語数の少ない分野があっても、頻繁に耳にする語が取り上げられていれば、その分野は十分ではないか。

最終的に言い換え対象からはずした語についても、検討の過程の資料や言い換えの候補などを、第4回の発表のあとで付録的に出せるとよい。

学術用語としての物質名は当委員会の性格にそぐわないものであり、言い換え対象からはずすべきである。

第4回で総集編として発表するにあたって、これまで提案したものについても、必要ならば再検討を行うことを考えてもよい。

「通じないことばを使わずわかりやすいことばを使おう」という基本方針は今後も継続して示し続けた方がよい。

言い換え作業にともなう外来語の分析は、役に立つことばの体系を作り上げる手がかりとなる。原語の実態と日本語の実態とを照らし合わせ、外来語の持つ問題とその手当てとを研究成果として積み重ねておくことが重要である。

以上